

半年以上、四六時中ずっと付けていたコルセットを外した。すつきりと何とも言えない気分だ。よく頑張った自分。けれど、私を支えてくれた大きな力を、私は改めて思い出していた。

中学一年生の夏、側弯曲症と診断され、度重なる検査を経て中学二年の冬に手術に踏み切った。手術当日、ストレッチャーに乗り運ばれていく際、あまりの怖さに私の目には涙が溢れてきた。「頑張ろう」と心に決め、いつしか眠りにつき、目覚めたときに初めて見たのは集中治療室の天井。五時間にも及ぶ手術を終えた私を待っていたのは、辛iriハビリの毎日だった。コルセットをつけて背筋を伸ばし、弱った肺や関節を強くする運動が特に辛かった。そんなある日。二年一組の仲間の合唱を収めた動画を、担任の先生が届けてくださった。一人一人の真剣な表情や歌う姿勢、綺麗なハーモニーから、みんなの思いが伝わってくる。自然と涙がこぼれた。合唱の最後には私へのメッセージも添えられていた。温かな呼び掛けに、心がほっこりとした。

リハビリで疲れた時、自由に動けず落ち込んだ時、この動画を何度も何度も繰り返し見た。ふるさとの仲間からエールをもらっている気分になれた。ふるさと神岡には、美しい自然、自慢できる文化がある。だが、一番の良さは人と人との関わり合いの強さだと思う。小学校から九年間、楽しく過ごしながらも、仲間を心から大切にしているからこそ、厳しくも指摘する。けれど、相手が本当に苦しんでいるとき、あのとときの私のように温かく支えてくれる。

私は将来、一度は神岡から離れ、これまでとは違う環境や仲間と一緒に過ごしてみたいと思っている。そうすることで「ふるさと神岡」とはまた違った刺激を受けて、その力をふるさとに返していくことができると思うからだ。入院中に、もらった合唱は、本当に嬉しくて、深く心に響いた。今度は、仲間が辛い時に私がエールを送り、私が「ふるさとの力」になりたい。